



セカンドオピニオン

和歌山中央医療生活協同組合

紀陽グリーンローン

発行日：2024 年 4 月 12 日

発行者：一般財団法人

和歌山社会経済研究所

研究部

本文書は、紀陽銀行（以下、「貸付人」という）が和歌山中央医療生活協同組合（以下、「借入人」という）に実施する紀陽グリーンローン（以下、「本ローン」という）について、ローン・マーケット・アソシエーション（LMA）等の「グリーンローン原則（2023 年版）」および環境省の「グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン 2022 年版」に対して整合的であると判断したものであり、以下にその評価結果を報告する。

○ 借入人の概要

借入人は、1954 年の設立以来、地元根差した医療介護福祉サービスを提供してきた医療生協である。「誰もが望む、健康でいきいきとした暮らし」、「いざというとき、安心・安全な医療や介護のサービス」を提供するために和歌山県和歌山市、岩出市、海南市のエリアに病院 1 カ所、診療所 6 カ所、介護老人保健施設 1 カ所、介護支援センター等の介護事業所数カ所を運営し、安心の医療・介護ネットワークを展開することで社会貢献を追求している。また、2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である SDGs（Sustainable Development Goals）にも賛同しており、「和歌山市 SDGs 推進ネットワーク」にも参加し、脱炭素社会を差し迫った重要な課題としてとらえ、事業所の省エネを進めるとともに、学習に取り組み、自らできることを検討し行動している。

1. 調達資金の使途

本借入金によって調達した資金の使途は、新規に建設する「和歌山生協病院サテライトありもと」の建設資金の一部として全額充当される。建物の建設費用 1,403,000 千円のうち 660,000 千円を本ローンで賄う。本施設は、借入人が運営している介護老人保健施設松寿苑の老朽化に伴う移設の為に新たに建設される施設で、松寿苑の他、サービス付き高齢者住宅、通所リハビリテーション、児童発達支援・放課後等デイサービス事業を備えた複合施設として

2023 年 12 月着工、2024 年 12 月竣工をめざす。尚、本施設は、ZEB Ready として建設される。ZEB (Net Zero Energy Building) とは、先進的な建築設計によるエネルギー負荷の抑制やパッシブ技術の採用による自然エネルギーの積極的な活用、高効率な設備システムの導入等により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギー化を実現した上で、再生可能エネルギーを導入することにより、エネルギー自立度を極力高め、年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロとすることを目指した建築物であり、エネルギー消費量の削減量に応じて下記の段階に分かれている。

ZEB

以下の①～②のすべてに適合した建築物

- ①基準一次エネルギー消費量から 50%以上の削減（再生可能エネルギーを除く）
- ②基準一次エネルギー消費量から 100%以上の削減（再生可能エネルギーを含む）

Nearly ZEB

以下の①～②のすべてに適合した建築物

- ①基準一次エネルギー消費量から 50%以上の削減（再生可能エネルギーを除く）
- ②基準一次エネルギー消費量から 75%以上 100%未満の削減（再生可能エネルギーを含む）

ZEB Ready

再生可能エネルギーを除き、基準一次エネルギー消費量から 50%以上の一次エネルギー消費量削減に適合した建築物

ZEB Oriented

以下の①及び②の定量的要件を満たす建築物

- ①該当する用途毎に、再生可能エネルギーを除き、基準一次エネルギー消費量から規定する一次エネルギー消費量を削減すること
 - A) 事務所等、学校等、工場等は 40%以上の一次エネルギー消費量削減
 - B) ホテル等、病院等、百貨店等、飲食店等、集会所等は 30%以上の一次エネルギー消費量削減
- ②「更なる省エネルギーの実現に向けた措置」として、未評価技術（WEBPRO において現時点で評価されていない技術）を導入すること

本施設は、ZEB Ready を実現する為に高効率設備を導入し、BEMS での計測・エネルギー監視により施設全体での省エネを図る。BEMS (Building Energy Management System) とは、ビル内で使用する電力の使用量などを計測し、「見える化」を図るとともに、空調や照明設備等を制御するエネルギー管理システムである。また、外皮には高性能断熱材と Low-E ペアガラスを採用して空調負荷を低減する。365 日、24 時間稼働する施設であるため、できるだけ自動的に省エネを実施できるような設備選定を行う。また、屋上に太陽光発電パネルを設置し、再生可

能エネルギーを利用した創エネによってさらなる省エネ効果を実現するとともに蓄電池を併用することにより、平時には昼間のピークカットに蓄電電力を利用し、自然災害等による停電時には避難所の非常用コンセントと照明器具に給電することを可能とするレジリエンス強化型の施設となっている。

以上の理由から、資金使途の対象は、グリーンプロジェクトの的確な事業区分としてグリーンローン原則等に記されている「地域、国又は国際的に認知された基準や認証を満たすグリーンビルディング」に該当すると評価できる。

また、貸付人は、調達資金がグリーンプロジェクトのために使われることやプロジェクトによる環境改善効果について借入人から事前に説明を受けており、グリーンローン原則等の趣旨に沿った内容であると評価できる。

■和歌山生協病院サテライトありもと



出所：和歌山中央医療生活協同組合提供



■対象物件概要

施設名称	和歌山生協病院サテライトありもと
所在地	和歌山県和歌山市有本字城ノ前 516-22、519-3、520-2、523-4、526-1、526-2
用途	主用途 介護老人保健施設（29 床） 複合用途 サービス付き高齢者住宅（46 室） 通所リハビリテーション 児童発達支援・放課後等デイサービス
敷地面積	3,251.93 m ²
延べ床面積	4,204.14 m ²
構造	鉄骨造り
階数	5 階
建設工事予定期間	2023 年 12 月着工、2024 年 12 月竣工予定
建物の費用	1,403,000 千円 (内、紀陽グリーンローンでの借り入れは 660,000 千円)
環境認証	BELS 評価 5 つ星、ZEB Ready
	ZEB 化を実現するための手法として高効率空調設備・センサー制御付 LED 照明機器・全熱交換器・DC ブラシレスモーター換気扇・インバーター制御ファンを導入し、BEMS での計測・エネルギー監視により施設全体での省エネを図る。外皮には高性能断熱材と Low-E ペアガラスを採用して空調負荷を低減する。

2.プロジェクトの評価と選定のプロセス

借入人は、グリーンプロジェクトの選定基準やプロセス等について下記の様な内容を貸付人に事前に説明しており、グリーンローン原則等の趣旨に沿った内容であると評価できる。

(1) 包括的な目標、戦略等への組み込み

借入人は、SDGs に賛同しており、地球温暖化によりもたらされる気候変動などの問題解決に寄与するために、事業所の省エネ等により温室効果ガス排出抑制に取り組んでいる。この取り組みの一環として、今回、介護老人保健施設松寿苑の老朽化に伴う移転新築を実施するにあたり施設の ZEB 化を行うこととした。温室効果ガス排出抑制のための取組としては、ZEB 化は優れた手段であることから、借入人は、本ローンを通じて、目標である気候変動の緩和に寄与することが出来ると評価できる。

(2) プロジェクトの評価・選定の判断基準

借入人は、本ローンの適格性の基準として、施設の省エネ性能を ZEB Ready という高い省エネ性能を示す環境認証の取得としている。同認証の取得は、一次エネルギーである化石燃料削減に伴う温室効果ガス排出量の削減により地球温暖化及び気候変動の緩和に繋がる高い環境改善効果が期待できるものとして評価できる。

(3) プロジェクトの評価・判断を行う際のプロセス

借入人は、「和歌山生協病院サテライトありもと」の建設に際し、専門的な知見を持ち合わせる介護部門職員、医療部門職員が参加するプロジェクトチームを立ち上げ、組織として掲げる SDGs 方針（省エネルギー）のもと ZEB Ready としての建設プロジェクトを検討した。検討結果は、その都度理事会で確認し、現在の建設予定地と建設する建物の概要が確認されている。そして、建設資金の一部を本ローンより調達することを貸付人と協議の上、理事会での議決を経て、最高意思決定機関である総代会で承認されている。以上、意思決定のプロセスは、専門的な検討と適切な評価・判断がなされていると評価できる。

(4) 環境社会面におけるネガティブ影響への配慮

借入人は、「和歌山生協病院サテライトありもと」の建設に際して、建設時の騒音、建設車両による周辺交通の妨げや安全な通行の阻害等のリスクを想定し、休日や夜間の工事は控え、車両監視・誘導員を配置するなど、周辺の住環境への配慮を徹底している。また、周辺住民に対しては、事前に工事説明会を開催し、工事内容、工事スケジュールとともに周辺住民に対する安全確保や環境配慮の方法などを丁寧に説明しており、周辺住民からの苦情は発生していない。以上のことから、借入人は、環境社会面におけるネガティブ影響への配慮を行っていると評価できる。

3. 調達資金の管理

本借入金によって調達された資金は、「和歌山生協病院サテライトありもと」の新規建設資金に全額が充当される予定である。資金の管理方法は、通常の設備資金への融資取組時と同様の管理が行われる。借入人からの要請を受け、請求書等のエビデンスや支払先情報を全て確認し、振り込みで対応する。資金の充当状況は支払い行為を通じて貸付人が管理する。借入人が主体となり調達資金の管理を行う一般のグリーンローンとは異なるが、グリーンローン原則及びグリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドラインが求める趣旨に沿った調達資金の管理がなされているものと評価できる。

4. レポーティング

借入人によるレポーティングは、下記の様に実施される予定になっており、グリーンローン原則等の趣旨に沿った内容であると評価できる。

(1) レポーティングの概要

- ・ 貸付人は、本ローン実行時、借入人の応諾を得て、プロジェクト概要等について貸付人のウェブサイトで公表する。
- ・ 貸付人は、融資期間中は、年1回の頻度で借入人から調達資金の充当状況や環境改善効果について、レポーティングの提出を受ける。
- ・ 貸付人は、同レポーティングの受領後、一般財団法人和歌山社会経済研究所（以下、「社経研」という）に提出し、レポーティングが適切な内容でなされているかの確認を受ける。
- ・ 借入人は、レポーティングの内容について借入人のウェブサイト等で一般に開示する。

(2) 環境改善効果に関わる指標、算定方法

借入人は、レポーティングにおいて、環境改善効果に関わる指標として、「和歌山生協病院サテライトありもと」竣工後の ZEB Ready の認証取得の有無を示し、借入人のウェブサイト等で開示する。

環境改善効果に関わる指標、算定方法の内容は、社経研に確認・意見を依頼しており専門性について担保される。



和歌山社会経済研究所概要

名称 一般財団法人 和歌山社会経済研究所

理事長 原口 裕之

所在地 〒640-8033 和歌山県和歌山市本町2丁目1番地フォルテワジマ6階

設立 1981年9月25日（和歌山県設立許可）

移行 2013年4月1日 一般財団法人へ移行

出捐金 7億円（出捐者：和歌山県、県内市町村及び民間企業）

TEL 073-432-1444（代表）

FAX 073-424-5350



留意事項

1. 和歌山社会経済研究所の第三者意見について

本文書については貸付人が、借入人に対して実施するグリーンローンについて、ローン・マーケット・アソシエーション（LMA）等の「グリーンローン原則」および環境省の「グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン」への適合性、準拠性、設定する目標の合理性に対する第三者意見を述べたものです。その内容は現時点で入手可能な公開情報、借入人から提供された情報や借入人へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況を評価するものであり、当該情報の正確性、実現可能性、将来における状況への評価を保証するものではありません。和歌山社会経済研究所は、当文書のあらゆる使用から生じる直接的、間接的損失や派生的損害については、一切責任を負いません。

2. 紀陽銀行との関係、独立性

和歌山社会経済研究所は、紀陽銀行とは独立した機関であります。
しかしながら紀陽銀行の代表取締役頭取は、和歌山社会経済研究所の理事長を務めていることから、紀陽銀行及び和歌山社会経済研究所並びに紀陽銀行のお客さま相互の間における利益相反のおそれのある取引等に関して、法令等に従い、お客さまの利益が不当に害されることのないように、適切に業務を遂行いたします。

また、本文書にかかる調査、分析、コンサルティング業務は紀陽銀行とは独立して行われるものであり、紀陽銀行からの融資に関する助言を構成するものでも、資金調達を保証するものでもありません。

3. 和歌山社会経済研究所の第三者性

借入人と和歌山社会経済研究所との間に利益相反が生じるような、資本関係、人的関係などの特別な利害関係はございません。

4. 本文書の著作権

本文書に関する一切の権利は、和歌山社会経済研究所が保有しています。本文書の全部または一部を自己使用の目的を超えて、複製、改変、翻案、頒布等を行うことは禁止されています。